

平成 29 年 1 月 23 日

事故情報の分析の試行について

(氏名) 村田 磨理子

1. 目的

事故情報データベースに登録されている事故情報に関して、項目や分類の標準化によって、利用者のニーズにより一層応えられる情報の提供や、報告者・情報入力担当者の負担を軽減する可能性について検証する。

2. 分析する事故情報の分野

事故情報データベースは、複数の関係機関からの情報を一元化して整理されているが、情報元によって収録されている項目が異なる。また、区分分けされている項目、例えば「商品など分類」、「商品など名称」は、事故の内容が類似であっても異なった区分に分類されている場合があるといった、分類の揺らぎが散見される。そのため、蓄積されている情報全体を網羅的に対象として分析する。

3. 分析において活用する技術

分析においては、集計表、グラフ、統計的分類の技術を活用する。集計表、グラフは、分布や推移の把握に有用である。また、統計的分類は、客観的な区分の作成に有用であると考えられる。なお、分析に当たっては、データベースのほかに、事故情報に関連した各種調査（アンケート）、統計などの外部情報を併せて使用して、項目や分類に関するニーズ適合性や整合性・比較可能性を考慮する。

4. 期待される成果

- ・これまで、(項目指定) 検索・集計に利用されていなかった項目について、適切に分類して検索・集計を可能とすることにより、利用者ニーズの適合性が向上し、利用の拡大が期待される
- ・項目の定義や分類基準を明確にすることによって、事故情報集計の明確性や比較可能性を向上させ、さらに統計分析を促進することが期待される
- ・一定の標準的な項目や分類基準を示すことにより、より多くの消費者からの情報提供が容易になることや、情報入力担当者の負担軽減が期待され、データベースの効率性に寄与する